



国臨協関信

HPアドレス <http://kanshinshibu.org>

平成30年 8 月

事務局 〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
 国立国際医療研究センター病院中央検査部門内
 発行者 岩崎 康治
 編集委員 小関 燈・岡村 康子
 磯 敬・中尾知江美
 印刷所 東洋印刷株式会社
 ☎ 03-3352-7443

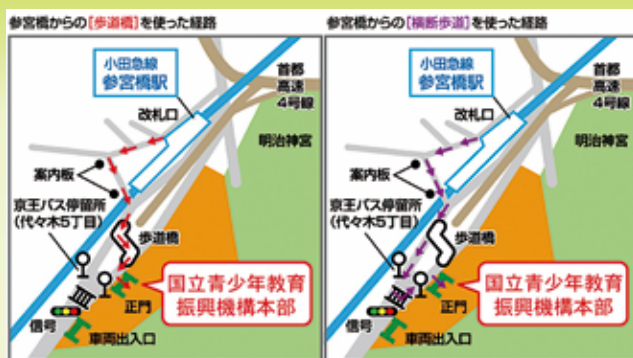
第46回国臨協関信支部学会

「次世代の臨床検査へ」

～知識・技術の継承と進化～

日時:平成30年9月1日(土)

場所:国立オリンピック記念青少年総合センター



- 小田急線 各駅停車 新宿駅から2駅(約3分)
 参宮橋駅 下車 徒歩7分
- 東京メトロ千代田線
 代々木公園駅下車(代々木公園方面4番出口) 徒歩約10分



COOL BIZ 宣言

学会には、どうぞ涼しげな軽装でご参加ください。
 支部役員もノーネクタイで務めさせていただきます。

第46回 国臨協関信支部学会日程表

会場名	センター棟 4 階 セミナーホール 417 室 第 1 会場	センター棟 4 階 409 室 第 2 会場	センター棟 4 階 401 室 第 3 会場
9:00	《総合受付》(9:00～14:30) スライド受付:各会場入口		
10:00	《開 会 式》(10:00～10:02)		
10:30	《一般演題》 (10:02～12:00) 1～16 生理	《一般演題》 (10:02～11:30) 26～29 一般・血液・輸血 30～36 免疫血清・臨床化学	
11:00			
11:30			
12:00	昼食休憩 (12:00～13:00) (抄録集を参照ください)		
12:30			
13:00	《一般演題》 (13:00～14:10) 17～20 生理 21～25 病理・その他		
13:30			《一般演題》 (13:30～14:21) 37～43 微生物
14:00	休 憩 (14:10～14:30)		休 憩 (14:21～14:30)
14:30	《学会企画》学術委員会による分科会 (14:30～15:30) 生理部門担当 (内容調整中)		《学会企画》学術委員会による分科会 (14:30～15:30) 血液部門担当 (内容調整中)
15:00			
15:30	休 憩 (15:30～15:40)		
16:00	《学会セレモニー・閉会式》 (15:40～16:30)		
16:30			

支部長挨拶



国立病院臨床検査技師協会 関東信越支部
支部長 岩崎 康治

平成30年4月21日に開催されました定期総会において、新役員が会員皆様に承認され支部長を仰せつかりましたNHO埼玉病院の岩崎でございます。執行部を代表しましてご挨拶申し上げます。

まず、峰岸前支部長はじめ退任された役員におかれましては、支部活動に大きくご尽力いただきましたこと、紙面をお借りして心より感謝申し上げます。

近年、検査科（部）を取りまく環境は大きく変わり、今年度も医療法の改正により大きな変革の年になろうとしています。品質、精度保証について明文化され、標準手順書、医療機器点検表等の整備が重要となります。臨床検査部門の標準化は、国臨協本部の事業として掲げられており、関信支部も積極的に連携していきたいと考えています。

平成30年度定期総会は、会員261名の出席と286名の委任状のもと開催され、事業方針等が承認され新たな支部活動がスタートすることになりました。長年、協力いただいていたルーチンアドバイザー制度を大きく改変し、より直接的に支部学術活動に関わっていただくために学術委員会を組織することになりました。研修会や支部学会が更に充実することを期待しています。

第1回研修会は、群馬県立心臓血管センター臨床検査課臨床検査技師長の小川公代氏に「仕事人生を“ラクに”生き抜く心の持ち方」と題し講演いただきました。私ごとではありますが、小川氏とは認定輸血検査技師資格の同期合格で、当時のことを思い出しながら談笑させていただきました。小川氏は村上記念奨励賞（トップ合格に授与）を受賞されており、私とは比べものにならないくらい優秀な方ということは申すまでもありません。多くの会員が大きくうなずき、これからの人生に活かすことが出来ると思われたのではないのでしょうか。今後も充実した研修会を企画していきたいと思えます。

第46回国臨協関信支部学会は、例年の会場ではなく初めての会場での開催となり不安な面もあります。執行部、学術委員会一丸となって取り組んでいきます。

初めての試みとして、意識調査を目的としたアンケート調査を実施することになり、会員皆様のご意見を頂戴し会務執行に役立てていきたいと思えます。

支部ニュースやホームページは、2、3年前から内容検討をしており充実した内容でお届けできるように継続し検討していきます。

国臨協本部、技師長協議会、専門職、地区会などと連携、協力しながら会員皆様方のための支部を築いていきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

退任挨拶



NHO高崎総合医療センター
峰岸 正明

平成26年度から支部長を4期努めさせていただきました。任期中は会員皆様のご理解とご協力を賜り、大過なく務めることができ大変に感謝申し上げます。

この4年間は臨床検査業務が拡大され、細菌検査等の検体採取が可能になる、そして法改正がされるなど変化が激しいときでした。支部活動としては、その変化に即した対応や関係する情報提供が求められました。その上でそれまでの執行部と支部長で築いてこられた国臨協関信支部事業のバトンをしっかり受け取り、それを堅固なものにしていくことを意識して取り組んでまいりました。参加人数に関しては、幸いにも会員数が増加したことや各施設の職場長のご指導のお陰で、各種研修会や支部学会等の参加人数が増加しました。このことは大変喜ばしいことではありますが、役員としましては会場の確保や受付時の混雑緩和への対応策が必要となりました。受付に関しては、平成28年度より関信支部独自のバーコード付会員証を発行し、バーコード受付することで混雑緩和を図りました。会場に関しては、国際医療研究センターの大会議室を当たり前のように借用して参りましたが、人数の増加と共にイスをレンタルして対応することもありました。それでも国際医療研究センターをお借りして開催出来たことは大変に恵まれていたことだと改めて認識しました。昨年末より国際医療研究センター病院の入館が厳しくなり土日、祝日は、正面玄関が開くのは午後からとなってしまいました。このことで支部主催研修会や支部学会が今までどおりと異なる対応をとらなければなりません。今年度の支部学会は、オリンピック記念青少年総合センターでの開催となります。新執行部が上手に対応されて今まで以上の学会にしてくれることを期待しています。また、会場のこと以外にも学術委員会が立ち上がるなど新しいことが始まりますが、このことは会員皆様の学術発展に寄与してくれるものと確信しています。最後に支部役員のご活躍並びに会員皆様のご健康とご多幸を祈念しまして退任の挨拶といたします。大変ありがとうございました。



臨床検査専門職 就任の挨拶



独立行政法人 国立病院機構 関東信越グループ
医療担当 臨床検査専門職 北 沢 敏 男

この度、独立行政法人国立病院機構
関東信越グループ医療担当臨床検査専
門職を命じられました北沢敏男です。

どうぞよろしくお願いいたします。

前臨床検査専門職であられた、林亮技師長におかれ
ましては、関東信越管内職員のためにご尽力いただき、
本当にお疲れ様でした。心より感謝申し上げます。

私は比較的長く長野県に身を置いていた田舎者では
ありますが、関東信越という広い視野を持って職務に
邁進したいと考えております。非常に身の引き締まる
思いではございますが、皆様のお力添えをいただきな
がら、その責任を全うできるよう誠心誠意努めて参り
ます。

さて、関東信越グループでは今後10年で職員の構成
が大きく変わろうとしています。現在の40歳代におけ
る少ない職員数。30歳代・20歳代における女性主体の
構成。現在のまま、ただ時間が過ぎるのを待っている
は、臨床検査組織の存続が危ぶまれようかという事態です。
組織を支える屋台骨として次の主任臨床検査技師を増
やしていくこと。職員数維持のための、登録選考試験。
特に、主任臨床検査技師については、絶対数が既に不
足しています。中細りの組織では、若い世代への育成
等にも影響が及びます。10年後20年後に繋がる人事調
整、研修事業による意識啓蒙を行っていければと考え
ています。

また、喫緊の課題として医療法等改正による文書類
等の整備が挙げられます。機構本部専門職や国臨協、
技師長協議会と協力し合いながら、滞りなく法施行の
本年12月を迎えられるよう、速やかな情報提供等を心
掛けて参ります。

最後になりますが、業務に明け暮れる毎日とは存じ
ますが、幸せて健康な毎日を過ごして頂き、次の良質
な仕事に繋げて頂けるようお願い申し上げます。

臨床検査専門職 退任の挨拶



NHO相模原病院
林 亮

平成30年4月1日付をもちまして、
独立行政法人国立病院機構関東信越グ
ループ医療担当臨床検査専門職の併任

を終了し、後任の北沢敏男臨床検査専門職にその職を
託すことになりました。

平成27年7月1日、前専門職の急病により急遽臨床
検査専門職を拝命し、大きな重圧と不安を感じながら
の出発となりましたが、無事勤め上げることが出来ま
したことは、機構本部臨床検査専門職をはじめ国臨協・
技師長協議会役員の方々、そして各施設の臨床検査技
師長並びに臨床検査部門に勤務する職員皆様にご支援・
ご協力を賜りましたお陰と、心より感謝し、厚く御礼
を申し上げます。

併任期間中は様々な状況に悪戦苦闘しながらも、専
門職業務の柱となります、人事関連業務及び研修事業
に誠心誠意対応して参りました。特に団塊の世代から
の大量退職が継続している中で、人材育成を喫緊の課
題に掲げ、国臨協関信支部との共同事業として一般技
師のボトムアップ研修（現在、多職種合同のキャリア
アップ研修として継続）、技師長協議会との事業として
主任技師育成研修を実施して参りました。研修会を行っ
ただけで人材育成が出来るとは考えておりませんが、
国臨協、技師長協議会、臨床検査専門職が三位一体と
なり、継続していくことで検査部門職員の意識改革に
繋がればと思っております。今後も厳しい状況が続い
て参りますが、会員の皆様には検査部門一丸となり難
局を乗り越えていただきたいと祈念いたします。

今後は相模原病院の技師長として、自施設の管理運
営に力を注ぐとともに、関信支部の一会員として、支
部活動を応援して参りたいと思います。また、後任の
北沢専門職には人材育成に加え法改正、病院機構の赤
字からの脱却など厳しい時期に専門職業務を託すこと
となります。会員の皆様には私同様多大なるご支援と
ご協力を是非ともお願い申し上げ、退任の挨拶とさせ
ていただきます。本当にありがとうございました。



第46回国臨協関信支部定期総会に参加して



NHO栃木医療センター

川 上 喜 久

平成30年4月21日（土）国立国際医療研究センター国際医療協力研修センター棟5階大会議室において第46回国臨協関信支部定期総会が開催されました。

た。

当日は東京の最高気温が26度と夏日の中、会場は多数の出席者で満員となり、吉田副支部長の開会の辞に続いて、議長には村山医療センターの長田技師長が選出され、峰岸支部長の挨拶の後、議案審議へと進行了しました。

平成29年度経過報告、会計報告、会計監査報告と承認され、平成30年度事業方針案では、新たにルーチンアドバイザー（RA）を学術委員会



として設置する案が提案され承認されました。今後、現在のRAは学術委員会として予算化され、支部研修会や地区会要望の研修会、技術指導、勉強会などに対応することになりました。また、支部活動の活性化および会員満足度の向上のため支部会員を対象としたアンケート調査を実施する提案も承認されました。

最後に新役員が選出がされ、岩崎新支部長のもと平成30年度の関信支部の新たなスタートとなりました。

恥ずかしながら、久しぶりの定期総会の参加でありましたが、若い会員の参加も多く関心の高さがうかがわれ、今後の関信支部に大いに期待が持てるものでした。お忙しい中ご準備頂いた関信支部役員の皆様に心から感謝申し上げます。



平成30年度 第1回関信支部主催研修会に参加して



NHO横浜医療センター

宮 川 真名実

平成30年4月21日（土）に国立国際医療研究センター病院において、第46回国臨協関信支部定期総会および研修会が開催されました。研修会では群馬県心臓血管センター技術部臨床検査課、小川公代先生より「仕事人生をラクに生き抜く心の持ち方」と題し、御講演頂きました。

御講演ではいくつかのセクションに分けてお話していただきましたが、その中でも「伝えたいこと 輸血療法委員会活動を通じて学んだこと」で挙げられた事柄に今まで臨床検査技師として働いてきた中で、思い当たる点がいくつかありました。例えば医師や看護師に検査や採血の説明をしてもなかなか伝わらず落ち込んだことも多々あり、どうすればもっとうまく説明することができたか反省と後悔をしていましたが、今回の講演を聞き、何が必要だった

のか、医師や看護師が考えていたことを察してどういった形で伝えるようにすればよかったのかなどとても参考になりました。実際に輸血の適正使用対策における医師への提言方法では、医師への伝達方法の工夫や医師の状況を慮る思いやりをもつことで自分がどういった姿勢を取るべきか今後に生かせると感じました。

また今までは日々のルーチン業務をこなすことばかりで、自分に知識や技術を身に付けていくという意識があまりありませんでした。しかしこれからのことを考えると、自分がどうなりたいのか、何を目標にし、達成するためには何が必要なのか深く考えさせられました。まだしっかりと定めることはできていませんが前向きに検討してゆきたいと思います。

また今までは日々のルーチン業務をこなすことばかりで、自分に知識や技術を身に付けていくという意識があまりありませんでした。しかしこれからのことを考えると、自分がどうなりたいのか、何を目標にし、達成するためには何が必要なのか深く考えさせられました。まだしっかりと定めることはできていませんが前向きに検討してゆきたいと思います。

最後にご多忙の中講演いただきました小川先生を始め、このたびの研修会等を企画・開催して頂きました国臨協関信支部役員の方々に厚く御礼申し上げます。



平成29年度国臨協関信支部主催合同交流会に参加して



国立がん研究センター東病院
枝 千 春

平成30年4月21日(土)国臨協関信支部主催の合同交流会が新御徒町の総合宴会場・会議室オーラムにて開催されました。当日は多くの会員の皆様に参加され大変盛り上がった交流会となりました。初めに定年退職された会員の桑村技師長、藤澤技師長の紹介があり、国臨協関信支部の峰岸支部長の挨拶に始まり、国臨協石井会長、国臨協OB会岩村会長、前国立病院機構関東信越グループ林臨床検査専門職の祝辞と続き、後任の北沢臨床検査専門職の挨拶と乾杯で合同交流会が始まりました。私は3カ月前に入職した為、関信支部の皆様とお会いするのはこの機会が初めてのため、とても緊張していました。しかし、所属施設の先輩方にサポートしていただきながら、多くの方々にご挨拶させて頂く中で、お世話になった諸先輩方や友人に会えたことや、初対面の私に多くの会員の皆様が気さくに話かけて頂いたことで、気がつけば緊張は和らぎ楽しい時間を過ごすことができました。

普段は別々の施設で働いているため、気付き難い

ですが、こんなに多くの先輩や仲間がいることを、合同交流会を通して改めて強く感じることができました。また、諸先輩方の貴重なエピソードを沢山伺うことができ、自分自身の新たな目標の発見にも繋がったあっという間の2時間でした。最後に長年の職責を全うされた退職会員の皆様におかれましては、これからもお体に気をつけてご活躍されることをお祈りいたします。

また、お忙しい中このような交流会を企画・開催してくださいました関信支部役員の皆様に深く感謝申し上げます。



平成30年度医療職(二)・福祉職キャリアアップ研修会に参加して



国立国際医療研究センター病院
松 本 聖 也

平成30年6月4日(月)に国立病院機構研修センターにて平成30年度医療職(二)・福祉職キャリアアップ研修会が開催されました。当日の朝は梅雨時の蒸し暑い中で満員電車で揺られて慣れない道を歩き、普段徒歩通勤の私にはつらい始まりでした。午前の講義では中堅職員における物事の捉え方からはじまり、労働基準法や職員就業規則における勤務時間や休暇等に関して、経営学的な言葉の意味や国立病院機構の財務状況などの講義でした。聞きなれない言葉が多く、少しでも知識を身につけようと必死で聴講しました。午後は職種別分科会が行われ、主任業務の内容や、コミュニケーションの取り方や重要性などの講義でした。普段からコミュニケーションは大切にしていきますが、相手の捉え方次第で伝わる内容が異なることを再認識できました。最後に「理想的な主任臨床検査技師とは？」という題目を結論厳禁・自由奔放・質より量・結合改善のルールの下で、2分間という短い時間でポストイットに自分の考えを書き込み模造紙に貼っ

ていくブレインストーミング法で行いました。そこで他の受講者も自分同様の不安や考えを持っていることが分かり少し安心しました。自分の不勉強さが浮き彫りとなった研修会でしたが、同時にこれから自分を取り組むべき課題が明確になり、大変実りある一日となりました。本研修会で学んだことを日々の業務に生かし、誰からも頼られる主任となれるように精進して参りたいと思います。最後になりましたが講義をして頂いた先生方、当研修会を企画開催して頂いた北沢臨床検査専門職ならびに役員の皆様に深く御礼申し上げます。



地区会だより

関信支部茨城地区会定期総会・研修会を終えて



NHO霞ヶ浦医療センター
塩 月 絵 梨

平成30年6月2日（土）に東海村産業・情報プラザにおいて、第38回国協関信支部茨城地区会定期総会および平成29年度学術研修会が開催されました。来賓として北沢臨床検査専門職、

関信支部より小関副支部長、若林理事のご出席を賜りました。定期総会では永井会長の挨拶から始まり、茨城地区活動の内容が報告されました。その後議案審議、新役員および委員の選出が行われ、無事終了しました。学術研修会では、茨城東病院から診療看護師の川崎竹哉先生をお迎えして「—未来の医療を支える—特定行為に関わる看護師の研修制度」と題して、看護師の研修制度の一つである診療看護師についてご講演をしていただきました。

診療看護師(JNP:Japanese Nurse Practitioner)とは、医師の指示のもと、一定の範囲の診療行為を行う看護師のことです。「手順書」という診療の補助を行うための指示文書を用いることで、医



師の指示を待たなくても医療行為を行える専門性の高い職種です。そのため救命救急の現場や在宅医療などを中心に診療と看護の能力を併せ持つ診療看護師が活躍されています。

様々な場で活躍を増やす看護師制度を拝聴するなかで、私たち臨床検査技師にも何か応用できないか考え、例えば「DVT超音波施行時に、異常を発見した場合、その場の技師の判断で右心系評価を実施できるような手順書を確立できれば、日常業務や病棟業務、在宅医療でのさらなる拡大につながるのではないかと、将来像を考える貴重な機会になりました。

研修会終了後には懇親会が行われ、他施設の会員とごっくばらんにお話することで、より一層親睦を深めることができました。最後になりますが、お忙しい中ご出席いただきました北沢臨床検査専門職、関信支部役員および総会の準備をして下さった茨城東病院のスタッフの方々に心よりお礼申し上げます。



東京・山梨地区会ボウリング大会に参加して



国立国際医療研究センター病院
北 浦 優 紀

平成30年5月19日（土）、5施設で構成されている関信支部東京・山梨地区会の文化交流会が品川で開催されました。当日は会員約50名の参加がありました。今年度の文化交流会は、品川ブ

リンスホテルボウリングセンターにて行われ、国際医療研究センター病院、村山医療センター、成育医療研究センター、甲府病院、東京医療センターの各施設の会員が4～5人のグループに分かれて点数を競いました。女性会員は1ゲームにつき50点のハンデを頂いて2ゲームを競い、各グループとも接戦の様相でした。グループは他施設の会員の方が殆どであり、様々なお話をすることが出来ました。私は今年度相模原病院から転勤をしてきたばかりでしたので、少々緊張気味ではありましたが、徐々にスベアやストライクが出始めると自然とハイタッチをして、大変盛り上がりました。他のレーンでも同様の盛り



上がりを見せており、普段の日常業務とは違った一面を見られた瞬間もあったのではないかと思います。ボウリング後には場所を移し懇親会が開かれ、個人別のボウリング大会の結果が発表されました。第一位から第五位までの表彰があり、私はハンデを頂いたおかげもあり、第一位を頂くことが出来ました。まさか呼ばれるとは思わず大変驚きましたが、後日院内でもそのことをきっかけに話かけて頂いたりと反響が大きく、参加できてよかったと感じております。

今回の文化交流会には私のような転勤者をはじめ、新採用の方も多く参加されていたようでしたので、院内の方だけでなく、他施設の方々とも交流を深められたことは大変有意義な時間となったことと思われました。

最後になりましたが、業務ご多忙中に今回の文化交流会を企画・開催して頂いた東京・山梨地区会理事の長田会長をはじめ、役員の皆様に心より感謝申し上げます。



地区会だより

千葉地区会交流会に参加して



NHO千葉東病院
河 合 真由子

平成30年5月19日（土）千葉地区会主催によるボウリング大会が開催されました。開催場所であるVEGAアサヒボウリングセンターには各施設から多くの千葉地区会員が参加され、5分間の練習と下総精神医療センターの山崎技師長そして下志津病院の益田技師長による両名の華麗な始球式でボウリング大会が始まりました。

今回は各レーン3～4名の編成となり、ゲーム数は2ゲーム、施設の平均点が勝敗を決める施設対抗戦となっていました。久しぶりのボウリングと2ゲームの疲労のせいでなかなかスコアは伸びず、自分のなかで過去最低のスコアを叩き出してしまいました。周囲を見るとストライクを連発したり、綺麗にピンを倒したりと上手な方ばかりで圧巻でした。

長いようで短い2ゲームが終わり、場所を移してボウリング場の大会議室にて交流会が始まりました。周囲と交流を深めつつほどよくアルコールが回り始めたころ、待ちに待った順位発表のときです。三位から順に結果が発表され、いよいよ優勝の発表。優勝施設は自施設である千葉東病院です。そしてブービー賞と最優

秀個人賞が続けて発表されました。ブービー賞は私の名前が上がり、最優秀個人賞は自施設の先輩である石田技師が受賞いたしました。施設優勝、ブービー賞、最優秀個人賞の輝かしい賞と景品であるお菓子をたくさんいただき大変嬉しく思います。

私は今回の交流会に参加させていただいて、普段では見られないメンバーの一面と他施設との交流が新鮮に感じたとともに親睦を深めることができたと感じました。

最後になりますが、お忙しいなか今回の企画を開催していただきました千葉地区会役員の皆様に厚く御礼申し上げます。



埼玉地区交流会に参加して



NHO東埼玉病院
阿 部 寿 哉

平成30年6月16日(土)埼玉地区会交流会がBBQ SKY TERRACE（西武デパート所沢店屋上）にて開催されました。当日は、梅雨の蒸し蒸しとした暑さとは打って変わり、上着が欲しくなるような涼しさとなりBBQ日和とはなりませんでしたが、26名の会員の皆様が集まりました。会場は駅目の前にあり、また事前に食材や機材も準備されていて、とても利便性がいいたと感じました。

まず、会の最初に埼玉地区渡辺会長（東埼玉）のご挨拶があり、その後、佐藤技師長（西埼玉中央）の乾杯のご発声でBBQがスタートしました。気温が低かったこともあり飲み物がなかなか進まない中で、鉄板で熱々焼いたお肉や野菜、その後に作った焼きそばは普段食べているものより一味も二味も美味しく、BBQの醍醐味を味わうことが出来ました。また、「同じ釜の飯を食う」ではないですが、同じ鉄板の上で一緒に食材を焼き食べることで、より一層地区会員としての絆が深まったように感じ、嬉しく思いました。そして、会場の盛り上がりも徐々に大きくなったところで、新採用や異動により埼玉地区会員となった方々の

紹介がありました。他施設の方々とはなかなかお会いする機会がないですが、少しでも早く名前と顔を覚え、一緒に埼玉地区会を盛り上げていきたいと思いました。その後、諸先輩方から普段ではなかなか聞くことの出来ないお話などを聞かせて頂いていると、あっという間に時間が過ぎてしまいました。会の最後に、菅原副技師長（埼玉）より閉会のご挨拶があり、今年度の埼玉地区会交流会は幕を閉じました。本当に有意義な時間を過ごさせて頂きました。

最後になりますが、今回の交流会を企画・開催して頂きました埼玉地区会役員の皆様に心より御礼申し上げます。



関信支部より 叙勲受章の お知らせ

平成30年春の叙勲におきまして、元国立病院東京医療センター臨床検査技師長 坂牧紀一氏が、保健衛生功労者として瑞宝双光章を受章されました。

坂牧紀一氏のこれまでのご功績を讃えるとともに、国臨協関信支部会員一同、心よりお祝い申し上げます。

国臨協関信支部役員紹介

役 務 分 担	氏 名	施 設 名
支 部 長（ 総 括 ）	岩 崎 康 治	NHO 埼玉病院
副支部長（総括補佐・学術）	渡 辺 靖	NHO 東埼玉病院
副支部長（総括補佐・広報）	小 関 燈	NHO 西埼玉中央病院
事 務 局 長（ 事 務 局 ）	吉 田 茂 久	国立がん研究センター東病院
事 務 局 総 務	椎 名 將 昭	NHO 栃木医療センター
事 務 局	石 川 明 子	NHO 東京医療センター
会 計	白 倉 聡	国立国際医療研究センター病院
学 術	若 林 弘	NHO 霞ヶ浦医療センター
学 術	中 谷 穂	国立がん研究センター中央病院
広 報	中 尾 知 江 美	NHO 村山医療センター
広 報	岡 村 康 子	NHO 千葉東病院
広 報	磯 敬	NHO 水戸医療センター
広 報・ホ ー ム ペ ー ジ	竹 内 智 也	NHO 久里浜医療センター
相 談 役	北 沢 敏 男	NHO 甲府病院
会 計 監 査	久 間 修 平	NHO 宇都宮病院
会 計 監 査	永 井 信 浩	NHO 茨城東病院

事務局と聞くと「問い合わせを受けるところ」のイメージくらいかもしれません。実際、事務局は裏方仕事が多々です。例えば「会議」を開く時、日時設定・事前調整・会議内容の選定・各部署への根回し・情報収集・議案書の作成・議事録の作成・配信等々、会議を円滑に進めるためにコツコツと下準備を行っています。決して目立つ仕事ではありませんが、裏で事務局が地味に働いていることを知っていただけたら嬉しいです。事務局：石川



今年度より関信支部広報を担当する事になりました、水戸医療センター磯と申します。

広報では支部ニュースを年4回発刊し、最新の話題や情報提供、各地区会近況報告など、会員の皆様に興味を持って読んでもらおうと、ホームページも閲覧しやすいよう試行錯誤して取り組んでいます。会員の皆様におかれましては、ご多忙中のところ、ご執筆のご協力を頂くと存じますが何卒ご理解の上、より良い広報活動に務めさせていただきますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

関信支部常任理事 学術を担当しております中谷 穂（なかに とみひろ）と申します。私の名前が、少々独特でありふりがなを付けさせていただきました。

関信支部の学術担当業務内容は、会員の皆様にとって実のある学会や研修会を企画・開催することが一番の仕事であります。しかし、会員それぞれ担当部署も違えば病院の特徴も違います。みなさんが興味を示す研修会を企画することにとっても頭を悩ませている次第であります。こんな研修会を開催して欲しいなどという要望がございましたら、是非ご意見いただければ幸いです。今後も、皆さんのために少しでも実のある研修会を企画していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

会員のひろば

茨城町の救急病院から

NHO水戸医療センター
山 根 千夏世



水戸医療センターは茨城町桜の郷に位置し、地域支援病院として地域の病院や診療所と連携して茨城県の医療に日々貢献しております。

始まりは明治43年4月、水戸市渡里町に水戸陸軍衛戍病院として創設されました。その後国立水戸病院を経て平成16年に現在の水戸医療センターと改称され、茨城町を拠点とするようになりました。

茨城町はのどかな町で、近年では開発が進んでいるものの、周りには畑が広がり、初夏には水辺に蛍の光が灯るのを眺め、秋には車のフロントガラスに跳び乗ったイナゴ達と共に帰宅することも珍しくありません。つい先日にはクワガタを見つけ、夏の訪れを感じたところです。また、ここ数年では春から秋にかけてヤギ達が期間職員として仲間となり、私達を見守りながら持ち前の食欲で伸びきった草を綺麗にしてくれています。

当センターでは昭和56年2月に茨城県及び全国の国立病院に先駆けて救命救急センターが開設されました。医療連携指定病院、第三次救急病院として24時間体制で患者さんの受け入れを行っています。平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、重症患者や救急患者を受け入れるとともに、被災した他の医療機関からも多くの入院患者を受け入れました。その未曾有の大震災から7年を迎え、当時は最大震度6弱を記録し大規模に損壊した病院施設も今ではすっかり修復され、壁に残っていたひび割れも目立たなくなりました。

これからも県北地域の救急医療の拠点として邁進すべく

当センターでは様々な取り組みを行っております。その1つとしてドクターヘリの運用があり、茨城全域から様々な患者さんが運ばれて来ます。当センターからは週の半分程度出動しており、近隣の病院と協力して全国でも有数の運用実績を挙げております。

また、急変時の対応力向上を目的として、日本救急医学会認定BLSコースを開催しております。BLSとはBasic Life Supportの略で、胸骨圧迫と人工呼吸、AED(自動体外除細動器)を使用した一次救命措置のことです。医師、看護師以外の医療従事者や事務、業務技術員にも受講が積極的に呼びかけられ、これまでに多くの方が参加してきました。臨床検査科でもBLSを始めとして、さらに進んだコースであるICLS(Immediate Cardiac Life Support)に参加する方達も増えています。こうした取り組みは蘇生現場でのチームワークの重要性を学び、医師や看護師を支えるための経験を積む重要な機会となっております。

また、救急医療の他にも地域の皆様の健康を支えるための役割として、一昨年から健康に対する様々なテーマを希望に応じて講演する「出前講座」にも取り組んでおります。脳卒中予防について、心臓病について、薬についてなど、テーマもその講演者の職種も様々です。臨床検査科でも、骨密度検査と関連して、骨密度検査の重要性や、骨密度を上げるための食事、運動面などの注意などの講義を行っています。このような活動を通して、臨床検査への理解が深まり、より良く関わっていけることを願っております。これからも地域と連携を密にして、茨城町から地域の皆様へ信頼される良質な医療を提供していきたいと考えております。





人事異動

【平成 30 年 4 月 16 日付 採用】

氏 名	新施設名	新職名
清 原 み さ き	国立国際医療研究センター病院	非常勤

【平成 30 年 5 月 1 日付 採用】

氏 名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
高 橋 美 樹	NHO 横浜医療センター	技 師	NHO 横浜医療センター	期間職員
佐 藤 あ ず さ	国立国際医療研究センター病院	技 師		
南 川 果 穂	NHO 西埼玉中央病院	非常勤		
増 田 佑 亮	NHO 東京医療センター	非常勤		

【平成 30 年 6 月 30 日付 退職】

氏 名	旧施設名	旧職名
佐 藤 和 美	N H O 東京医療センター	技 師
小 川 桃 世	N H O 相 模 原 病 院	技 師
瀬 高 綾 子	国立国際医療研究センター病院	技 師
浅 尾 里 菜	国立国際医療研究センター病院	技 師

【平成 30 年 7 月 1 日付 配置換え・採用】

氏 名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
後 藤 美 樹	国立成育医療研究センター	副技師長	国立療養所多磨全生園	副技師長
工 藤 元 記	国立療養所多磨全生園	副技師長	国立成育医療研究センター	副技師長
中 田 雄 大	NHO 千葉医療センター	技 師	NHO 災害医療センター	非常勤
橋 本 茂 樹	NHO 東京医療センター	技 師	NHO 高崎総合医療センター	非常勤
山 本 歩	国立国際医療研究センター病院	技 師	国立成育医療研究センター	非常勤
村 井 春	国立国際医療研究センター病院	技 師		

国臨協関信支部今後の予定

月	日	曜日	学術部	地区会	その他	広 報
8 月	1 日	水				支部ニュース 214 号
	1 日	土	第46回関信支部学会			
9 月	8 日	土		埼玉地区会 定期総会		
	22 日	土		群馬地区会 定期総会		
	6 日	土		新潟地区会 定期総会		
	13 日	土		神奈川地区会 定期総会		
10 月	20 日	土			主任技師等任用候補者選考	
	27 日	土		東京地区会 定期総会		
	31 日	木				支部ニュース 215 号

編 集 後 記 今年は例年よりも早い6月に梅雨が明けました
が、7月に発生した西日本豪雨では平成以降最も
多くの方が犠牲となる甚大な災害をもたらしまし
た。心よりお見舞い申し上げます。さて、9月
1日(土)に開催される第46回国臨協関信支部学会は国立オリ
ンピック記念青少年総合センターでの開催となります。素晴ら
しい学会になるよう役員一同で頑張っておりますので、会員
の皆様の参加を心よりお待ちしております。

広報部 中尾知江美

覚えよう

身につけよう

検査技術!

B型肝炎ユニバーサルワクチネーション

<はじめに>

<ユニバーサルワクチネーションとは…>

● 定期接種

▶ 予防接種法で定められた「法定接種ワクチン」のことで、国や自治体が勧奨している。多くの自治体では、定められた期間内に接種する定期接種の場合、無料（公費）で実施される（一部、有料の場合もあり）。

<セレクトティブワクチネーションとは…>

● 任意接種

▶ 定期接種以外で、日本で受けられる予防接種と、定期接種の期間外に受けるものが対象となり、すべて有料となる（任意接種ワクチンに対しても、自治体によっては公費助成制度がある場合もあり）。

<ワクチン・ギャップとは…>

● わが国では、予防接種の副反応の問題等を背景に予防接種行政に慎重な対応が求められてきた経緯から、WHOが推奨しているワクチンが予防接種法の対象となっておらず、他の先進諸国と比べて公的に接種するワクチンの数が少ない。

<世界の状況>

世界保健機関（World Health Organization: WHO）ではHBVに関連した肝硬変・肝がんの発生を減少させるため、世界規模でのHBV感染のコントロールを目指し、1992年にB型肝炎ワクチンのユニバーサルワクチネーションを全世界の国々が実施するよう勧告した。その結果、2014年までに184の国で、乳幼児の予防接種が導入されることとなった。また接種率80～90%前後のユニバーサルワクチネーションを達成した国では、急性B型肝炎の減少を報告している。

1. B型肝炎母子感染防止事業（セレクトティブワクチネーション）

HBVキャリアの母から生まれる児を対象とした母子感染防止事業が、わが国では1986年1月から開始された。妊婦に対する血中HBVマーカーの検査、B型肝炎ワクチンおよび抗HBs人免疫グロブリン（hepatitis B immune globulin: HBIG）を併用した処置を、公費によって実施するものであった。1995年度から本事業は、健康保険の給付対象に変更された。それに加えて、それまでのHBe抗原陽性の母親からの出生する児（ハイリスク群）に重点を絞った公費負担による事業から、HBs抗原陽性の全ての母親から出生する児（ハイリスク群とローリスク群の両者）を対象とした保険医療へと変更された。

この事業によって、日本の乳幼児におけるHBV感染率は大幅に下がり、母子感染防止事業の開始10年後となる1995年には、母子感染によるHBVキャリア化率は0.26%から0.024%にまで低下した。

2. 容易に起こる水平感染

母子感染防止事業により母子感染によるHBVキャリアは減少してきた一方で、小児において、過去の感染を示すHBc抗体陽性者は、HBs抗原陽性者の数倍以上存在することなどから、B型肝炎ウイルスに暴露する小児が一定程度いるものと考えられる。

血液や精液以外にも、唾液や汗などの体液にも感染性のウイルスが存在することが証明されており、家庭内や施設内での水平感染につながる可能性がある。

体液によるHBV水平感染事例の報告

年	研究内容	感染経路	引用元
1982	相模原市B型肝炎の流行	皮膚と皮膚の接触	Katsumagi, JAMA
1989	Day Care Center (保育園) で流行	不明	Shapiro, JID
1989	DCC (保育園) で流行	不明	Sera, Lancet
1991	DCC (保育園) で流行	体液	Shapiro, Pediatr Infect Dis J
2000	大学フットボール部で流行	皮膚と皮膚の接触	Tsai, Arch Intern Med
2002	自宅で共同生活に感染	唾液	Mark-Carende, JID
2005	かみつきで感染→遺伝子配列で同一ウイルスを証明	唾液	Hu, JMV
2006	キャリアの体液からHBV DNA検出	汗	Kido-Inagami, J Hepatol
2007	血液と汗のHBV DNA量相関	尿、唾液、汗	Benkel, Br J Sports Med
2010	涙中のHBV DNA感染力を証明	涙	Katsumagi, JID

厚生労働省研究班「B型肝炎の母子感染および水平感染の把握とワクチン戦略の再構築に関する研究」H23年度研究報告書

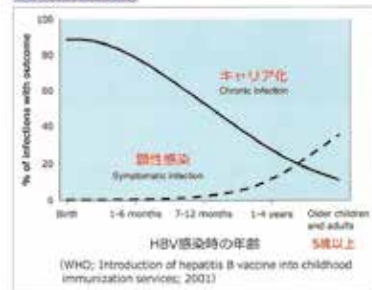
NHO相模原病院 田中 暁 人

3. 小児へのHBワクチンの必要性

5歳未満の小児がHBVに感染した場合、キャリア化しやすいという特徴がある。特にHBe抗原陽性の母親から生まれた児では、感染予防措置が行われなかった場合、約90%がキャリア化する。また、5歳未満の乳幼児ではHBVに感染してもほとんど肝炎の症状はみられず不顕性感染を起こし、大部分がキャリア化する。

このため公衆衛生学的には、社会全体でHBVキャリアの新たな発生を防ぐために、乳児期の早いタイミングでHBワクチンを接種することが求められている。

小児のHBV感染



4. HBVを体内から排除することは困難

HCVは新しい治療薬によりウイルスを体から排除できるようになったが、HBVは現在の治療法では肝細胞内からウイルスを完全に除去することはできない。HBs抗原が陰性化しても実際には肝細胞内にウイルス核酸が残存しており、生涯にわたって体内にウイルスが存在し続けていると考えられている。

細胞性免疫の低下や、免疫抑制効果の高い治療ではHBV再活性化のリスクが高く、劇症肝炎を起こして亡くられる事例が多数報告された。

5. B型肝炎ワクチンの定期接種化（ユニバーサルワクチネーション）

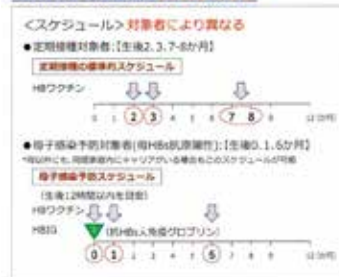
ワクチン・ギャップの解消や、国内外の経緯から、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会での審議が行われ、2016年10月から0歳児に対するB型肝炎ワクチンの定期接種が開始された。

6. 対象と接種スケジュール

定期予防接種対象年齢は、出生後から生後12月未満の者である。計3回の接種であり、27日以上の間隔で2回、さらに、初回接種から139日以上の間隔を置いて1回の皮下注射を行う。標準的には生後2ヵ月から接種を開始する（生後9ヵ月に至るまでが標準的な接種期間）。感染のリスクが高い場合には出生直後からの接種も可能である。

また、母子感染予防対象者とは、スケジュールが異なるため注意が必要である。

HBワクチン定期接種 実施上の注意



<まとめ>

B型肝炎は日常生活でも容易に感染し得る疾患である。さらに根治は困難で、一生にわたり様々なリスクがある。水平感染を防止するために全出生者を対象に予防接種を実施することで、長期的には、B型肝炎による社会的疾病負担の更なる軽減が期待できる。

<参考文献>

1. 厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服対策研究事業「小児におけるB型肝炎の水平感染の実態把握とワクチン戦略の再構築に関する研究」平成25～27年度総合研究報告書 研究代表者 須崎 亮
2. B型肝炎ワクチンに関するファクトシート（第11回感染症分科会予防接種部会 資料2）
3. B型肝炎作業チーム報告書（第6回感染症分科会予防接種部会ワクチン評価に関する小委員会）
4. 白木和夫、わが国におけるB型肝炎母子感染防止の経緯とuniversal vaccinationの必要性について、小児感染免疫 21（2）：149-157, 2009
5. B型肝炎ワクチンの技術的検討について（第6回予防接種・ワクチン分科会 資料3）[厚生科学研究（須崎崎班）の研究結果概要]